おらほの会社

新和設計（株）の巻

小関　一美

「まえがき」

「おらほの会社」の紹介も２巡目にはいっているということです。おらほの会社では2006年に最初の紹介をさせていただきまして、その時は会社の歴史・事業内容さらには本社のある米沢とその周辺風土までご紹介させていただきました。

今回は２巡目でありますので、2006年に事業内容の項で若干紹介しました「地質環境業務（いわゆる土壌・地下水汚染）」の取り組みについてその経緯と現況を紹介します。また､本誌面のタイトルである「おらほの会社」の「おらほ」という言い回し(方言)について米沢での「おらほ」を少し紹介します。

「土壌・地下水汚染業務の取り組み」

1) 基礎固め

もともと、米沢では環境庁（当時）のモデル事業として平成６年頃から地下水汚染の調査がなされていました地元に生業を求めていながらこの事実は知りませんでした。

しかし、この事業の中で地下水観測用井戸の設置をお願いしたいという話（受注会社）がありまして、十数本設置したことがきっかけのひとつになったのかも知れません。

土壌・地下水汚染に関わる取り組みを始めたのは今から約10年程前からになります。当時は、土壌・地下水汚染という言葉すらあまり耳にしない環境にありました。

土壌・地下水汚染という業務がはたして商売として成り立つものなのかという不安を抱えてのスタートでしたが地質調査部門の若者たちが立ち上がったのです。

そこで、当初は地質調査部門の若手社員数名が、土壌・地下水汚染の調査や浄化を手がけていた会社へお願いしまして、数年間出向し、その基礎技術や浄化現場への対応等様々の技術習得をさせていただきました。

2) 全国の現場へ旅立ち

土壌汚染対策法の制定を契機に、千葉県内に拠点を設け、出向という立場でしたが勉強先の好意もあり請負という形で色々な汚染サイトの調査をてがけてきました。当時は法律の制定とか出向先の客先が工場・事業場との繋がりがあったことから、北は北海道、南は福岡県での現場があり、特に名古屋・大阪周辺での現場がおおかったと思います。

それこそ全国を股にかけての奮闘であったことから、客先の要望で土曜日・日曜日は勿論のこと正月や盆休みの無い年もありまして、若い社員には苦労していただきました。

3) 協会組織の構築

千葉県内に拠点を置いた社員の奮闘ぶりに、本社での取り組みにも熱がはいりました。その結果として、土壌汚染対策法の制定と前後するように、山形県内での協会の設立や、東北各県内でのネットワークの構築等を進めてきました。現在も活動しています。

4) 現在の取り組み

全国を股にかけて取り組んできた事業でありますが､バブル経済の崩壊により工場･事業場の調査や浄化にかける経費の引き締めや土地取引の低迷等から、土壌・地下水汚染にかかわる調査案件が低下してきたことを契機に、千葉県内の拠点を本社に集約し現在に至っています。

最近は、土壌・地下水汚染に関わる調査等の業務が行政機関からも発注になるケー

スも増えてきていますので、受注環境は厳しいですが積極的に取り組んでおります。

5) 印象に残る現場

私たちは幸運にも多くの土壌・地下水汚染の現場に携わることが出来ましたが、今でも印象に残る汚染サイトがあります。

具体的な汚染現場名は書くことは出来ませんが、東北地方の地域で、単位区画（土壌汚染調査の取り決め）が 30m × 30m で 110 区画の広さをもつ土壌地下水汚染現場でした。当然、履歴調査から始まり状況調査・詳細調査さらには対策案の作成まで 3 ～ 4 年がかりの業務で、現在も地下水のモニタリングを年 4 回行っています。

6) 本項の最後に

バブル経済が崩壊し、土地神話が終焉する中、土壌汚染という極めて深刻な環境問題を抱え、さらに土地の評価や企業会計に影響を与えることになる新しい時代を迎え土地に対する考え方や認識も大胆に変えなければならないと感じます。自分も相手も最大の利益が得られるようにコミュニケーションを通じて信頼性を高め問題を解決していく“ウィン・ウィン・アプローチ”が最も理想と考えながら前進していくことを肝に命じています。

「おらほ」雑感

「おらほ」＝「我々の、私たちの」の意。方言は不断着の国語であり、祖先から引き継いだ貴重な遺産の一つといえるのではないでしょうか。最近では「方言かるた」も登場し方言の楽しみ方がされています。

タイトルの一部にも使われている「おらほ」という言葉自体、東北に住む人々にとっては何の抵抗もなくすんなりと耳に収まります。

しかし、「おらほ」と字にしてみると米沢に住む一部の人（私自身）にとっては何かしっくりいかないこともあり、辞書を引っ張り出しました。

そこで、「米沢方言辞典」というものでこの「おらほ」について調べてみました。当然、米沢方言辞典では「おらほ」という言い方はなく、「おらだ」という言い方が記載されていました。この意味するところは、私どもという丁寧な言い方。この「おらだ」に似た言い方として「おらどこ」や「おらんどこ」等が使われていますが、我々のとか私たちのというような意とは少しニュアンスが違うかも知れません。

今から 120 年前（明治 11 年）にイギリス人のイザベラ・バードがこの「おらだ」の町である米沢地方を旅して、エデンの園と言わしめた情景や情緒豊かな所で、どのような方言で会話がなされたのでしょうか。

こんなことを考えていましたが、「おらだの会社」、「おらほの会社」、「･･･の会社」。やっぱり「おらほの会社」でいいのか。